

NPO 法人 共に歩む市民の会

会 報

2005年11月21日発行

共に歩む市民の会広報委員会

通巻 第15号

☎241-0022

横浜市旭区鶴ヶ峰2-1-16

☎045-953-6727

近代資本主義は間違っていた!!

「NPO 法人 共に歩む市民の会」の監事をさせていただいております、瀬崎です。あまりお手伝いができず心苦しく思っていたところ、「巻頭言を」とのお話に、せめてもの罪滅ぼしとの思いで書いています。

題目は「近代資本主義は間違っていた!!」と、この会報の趣旨に合わないと考える方もいると思いますが、少し、私のいつも思っていることをお聞きください。

近代の究極の姿といわれている近代資本主義は多くの矛盾を抱えているとおもうのです。資本主義の道をひたすら走り、工業化を始めたあたりから、「人々の幸せの価値」が変わってきたように思います。「愛でる喜び」から「持てる喜び」に変わり、地球上にあった動植物の品種が激減していきました。現在は、約200万品種あると言われていますが、近年では毎年5万品種が地球上から絶滅しているという報告もあります。一万年前は絶滅する動植物はなかったと学者は言っています。

近代資本主義の工業化により便利になり、人間が「持てる喜び」を味わえば味わうほど、動植物は絶滅し公害が増え新しい病気が生まれました。近い将来このような世界は崩壊するでしょう。社会は「敵」と「味方」とか、「善」と「悪」、「金銭的な得」「金銭的な損」を大きな「ものさし」

にしてきました。存在するものを「敵と味方」に分け、敵を批判し否定し、敵を排除し、抹殺してきました。その考え方の延長が「ハンディキャップ」を持っている方々へのいわれもない差別や偏見ではないのかと私は考えます。地上にある物については、全て意義があり意味がある存在であると思います。それが「人間」であっても「動植物」であってもです。お互に悪いところをさがすのではなく、良いところをさがし、協調し合い、共生するほうが楽しくて気分の良いものなのです。「人のためになる」「世の中のためになる」ことが、実は「金銭的にも得になる」だけではなく、自分も「幸せになり」「生きがいになる」のです。約2000年前に書かれた書物の中にこんなことが書いてあります。



「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」

この星の何億年の歴史を越え、同じ時代同じ場所で出会った者同士、いつまでも愛し合って生きたいと思います。

物質にこだわり過ぎた価値感を変えてみませんか。・・・

(瀬崎忠雄)



作業所インタビュー

木楽舎を訪ねて

松元 紀子 森 輝幸

10月の雨の降るとある日、一軒の喫茶店を見つけました。そこは、鶴ヶ峰の坂道の途中にあるおしゃれで暖かな雰囲気をもった場所。ん?木楽舎が運営する「ゆいまーる」とな。ちょっとのぞいてみましょうか。

迎えてくれたのは、メンバーの相原さん、川島さん、パートナーの荻野さん、スタッフの吉岡さんです。

■森 「木楽舎はどんな作業所なんですか?」

□相原「喫茶店の運営を中心に、老人ホームに出張して喫茶を行ったり、ミーティング、ランチづくり、作業所のむくどり家との交流プログラムの相互参加をしています。雰囲気は和やかだね。」

■松元「どういった人達が係わっているのでしょうか?」

□荻野「メンバーとスタッフとパートナーがいます。パートナーとは、今までボランティアと呼ばれていたのですが、ゆいまーるになってから、一方的なお手伝いではなく、みんなで一緒にやっていこうということでこの名前がつきました。名前が変わって気持ちも変わりました、お互いパートナーなのだと。」

□相原「パートナーがいるから安心。その存在がとても大きいです。」

■森 「木楽舎に通われてどんな感想をもっていますか?」

□川島「僕はむくどりの家のメンバーですが、仕事に入ると張り合いがあるし、毎日のリズムも生まれます。仲間にエネルギーを分けてもらっている大切な場所です。」

□荻野「ゆっくりくつろげる、たくさん友達ができる所。居心地が良く、ゆったりとした時間が流れています。」

■森 「素敵なお店のレイアウトですね。」

□吉岡「メンバー、パートナー、スタッフで展示担当を組み、年に数回話し合って基本のスタイルを決めています。季節のアレンジを加えたり、益子焼展やリサイクル展を開いたりすることもあります。」

■森 「アピールしたい点を教えてください。」

□荻野「良質で良心的な商品をこころがけている点です。」

□相原「パートナーを含めたチームワークです。」

■松元「今後の木楽舎の夢を語ってくださいますか。」

□川島「もっと繁盛して、売り上げが伸びてほしい。はやってほしいです。」

□吉岡「“自分たちのお店”とみんなが思いながら、メンバーもスタッフもパートナーもみんながより一層いろいろな意見を出して、ゆいまーるを作っていくようになれば良いなあと思います。」



みんなのお店「ゆいまーる」

TEL: 952-3769 【★お飲み物・ケーキ 150円★】

営業日: 毎週水・木・金 (祝日除く)

営業時間: 11時~17時

(ラストオーダー16時半)

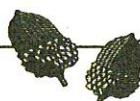
どうぞみなさん、ゆいまーるへ
“ほつ” ε = (^o^) とくつろぎにいらしてください。

〈秋・冬のオススメ〉

・ホットココア ・季節のブレンドコーヒー

パートナー募集

ゆいまーるで障害や年齢・立場を越えて、わたしたちと共に活動してくれるパートナーさんを募集中です。まずはお店にいらしてみてください。



ほっとぽっとニュース ダイジェスト

9月 【家族のたまり場】 オープン！

家族だってたまにはのんびりしたり、おなじ立場の誰かと話したい…

そんな要望にお応えして！9月から家族のための“たまり場”がオープンしました♪

第3火曜日 13:00～15:30 ほっとぽっと 別館

その他こんなこともやってます♪



【からだの時間】

軽く体を動かしてリラックス

第1木曜日 14:00～（談話室）

【LADY'S ROOM】

女性のためのサロン

第2木曜日 14:00～（別館）

【お医者さんと話そう！】

佐伯先生と一緒に座談会＆ランチ

第3木曜日 10:30～13:00

10月 旭ふれあいスポーツ ソフトボール大会参加！

10月20日のソフトボール大会にほっとぽっと+旭会 の合同チームで参加しました。

初参加ながら1勝1敗で、17得点をあげる大健闘ぶりでした。スポーツを通して色々な人とのコミュニケーションがとれて、皆さんとても楽しそうでした。

研修参加ミニレポート ~横浜市障害者ケアマネジメント研修会（10/19・25）~

横浜市と市社協主催のこの研修会は今回初めて精神を含む3障害合同開催とのことです。市内の様々な施設・病院・事業所のスタッフ約70人に交じって参加しました。

メインイベントは2日目に精神分野代表で登場した重久朝子さん（むくどりの家）と高野さん（理事長）のお話でした。重久さんは発病から40数年の歩みを45分に凝縮して語られました。「不安は解消することはできない。けれど埋めていくことはできる」という言葉があり、実体験に裏打ちされているだけに深く印象に残りました。今回講演の準備をしていてそのことに気が付いたのだそうです。高野さんは「話をよく聞く」ことをはじめ「尊厳をもって相手を受けとめる」ことの重要性を話されました。

他の障害分野でも支援者と当事者がペアで登場。研修の企画・運営にも身障の当事者がしっかりとかかわっていました。時代の潮流を改めて実感しました。「総合的かつ継続的なサービスを確保するための本来のケアマネを障害分野で確立できるかどうかで日本の福祉の命運が決まる」という東洋大・高山氏（概論の講師）の言葉も耳の奥に残っています。

松迫さん（神奈川第二病院）と「他障害の具体的な制度のことをもう少し知りたかったね」などと話しながら、堅くなった首と腰をさすりさすり帰途につきました。（川田 剛）

幹事交流会を終えて

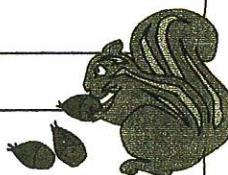
これまで市民の会では、夏は納涼会や月見の会を行ってきた。今年は、新しく幹事会に参加する人も増えたので、幹事同士の交流会をもつこととなった。

9月22日（木）幹事会＆交流会では、今回初めて参加してくれた人もいた。少ない人数の幹事会ではあったが、交流会の方は19名が参加してくれ賑やかであった。

交流会の参加費は、食べ物や飲み物の買い物が安く押さえられたので、500円から100円になった。食べ物も焼肉、お好み焼き、焼きそばなどがあり、参加してくれた人達も腹いっぱいになったと思う。ただ、ホットプレートを4台使ったため、ブレーカーが落ちて大変だった。しかし、これにめげず、また別の企画を考えたいと思っている。（足立 文夫）



新装開店！～ちかごろのカンジカイ（幹事会）レポート～

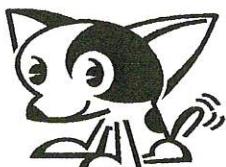


共に歩む市民の会の「幹事会」（ほぼ毎月開催）がこのところフレッシュです。

その一番の理由はこれまでになく様々なニューフェースが毎回参加していることにあります。作業所や病院の新しいスタッフ（ワーカーだけでなく他職種も）。語らい電話ボランティアの世話人。当事者も参加の層がひろがりつつあります。たまり場時代からのベテラン（？）も交えてにぎやかです。昨年10月にNPO法人となるまで、あらゆる問題が幹事会で取りあげられ決められていました。法人化したことによりそれが変化し、基本方針、職員や建物の確保について等、団体の元締め（執行機関）としてのはたらきは理事会に移りました。幹事会は「交流と情報交換」「事業の企画や実行」「広報・資金」等の話し合いの場となり、関心のある人は誰でも参加できることとなったのです。理事会と幹事会は二人三脚の関係といえるでしょう。

当事者自身もふくめ各々が自分の生活や団体の近況を語る。「へー、そうなんだネ～」と聞き合うところから新たな発見があり、視野も広がりアイデアが生まれていきます。あなたも幹事会をのぞいてみませんか！？

[次回は12月7日（水）6：30～ ほっとぽっと2F] （レポート=事務局・川田）



編集後記

- 紅葉が素晴らしい今日この頃ですね。皆様、かぜをひかぬようお過ごしください。 松元
- 真冬が来る前に発行できたので、木楽舎の珈琲を飲みながらほっとしたい気分です。 森
- 流行に敏感で毎年インフルエンザにかかっているこの私…皆さん気をつけましょう！ 高木
- またしても大慌ての編集となってしまいました。来年こそは…。松迫